

数字で見る 姫路経済 2023



姫路商工会議所
姫路経済研究所



目 次

1. 姫路市の歴史	1
2. 姫路市の概要	2
3. 人 口	
(1) 世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷	3
(2) 年齢階層別人口推移及び世帯類型別推移	4
(3) 小学校校区別将来人口推計	5
4. 産 業	
(1) 産業構造	6
(2) 製 造 業	7
(3) 卸 売 業	8
(4) 小 売 業	9
(5) その他関連指標	10
5. 姫路市内景気動向	11
6. 観 光	12
7. 姫路市の統計データランキング	13

【表紙写真提供】

ヤマサ蒲鉾株式会社 代表取締役社長 名田 和由

1 姫路市の歴史

姫路市は、兵庫県の南西部に広がる播磨平野の中央部に位置し、神戸市まで約50km、岡山市まで約70kmの距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっている。

1889年4月に江戸時代の城下町とその外縁部（面積約3km²）を市域とする人口約25,000人の都市として、全国30市とともに我が国初の市制を施行したところから始まる。

大正時代には、姫路駅周辺は一大ターミナルとして商業施設が集積するとともに、旧制高校のうちの1校である旧制姫路高等学校が1924年に開校し、文教府としての側面を持つようになった。

工業化の面では、明治後期から昭和にかけて紡績業等の軽工業が発展するとともに、大正から昭和にかけて臨海部に製鉄業等の重工業が進出し、人口の集積に伴い市街地が拡大した。

太平洋戦争では2回の空襲により市街地は壊滅的な打撃を受けたが、戦後復興を早期に果たすべく市のシンボルロードである大手前通りの整備や市街地の改造に取り組み、姫路駅周辺の復興が図られた。

高度経済成長期には、播磨臨海工業地帯の中心としての役割を担い、商工業都市として今日の姿へと発展を遂げてきた。

1993年に姫路城が法隆寺とともに日本で初めて世界文化遺産に登録された。

本市は、1889年の姫路市制施行から1967年にかけて計11回に及ぶ市町村合併により市域を拡大してきた。2006年には近隣4町（家島町、夢前町、香寺町、安富町）と合併し人口53万人の新生「姫路市」が誕生した。

現在、産業面では、「ものづくり産業」の厚い集積がある特性を備え、臨海部には鉄鋼、化学などの大企業やそれらを支える技術力のある中小企業が集積し、全国有数の工業地帯を形成している。また、市内に姫路工業大学を前身とする兵庫県立大学工学部や全国初の「公私協力方式」で設立された姫路獨協大学などがあり、産官学が連携して、研究協力や学術交流を行っている。

2015年3月には、平成の大修理を終えた姫路城がグランドオープンし、初年度は286万人の入城者数を記録した。

2015年度より、本市は「播磨圏域連携中枢都市圏（8市8町）」における連携中枢都市となり、地方が踏みとどまるための拠点として、人口減少の防波堤となることを期待されている。

姫路駅を中心とする開発について、北駅前広場を含むエントランスゾーンは、2015年4月に完成し、その東に隣接するコアゾーンについても、ホテル、シネマコンプレックス、専門学校等が開設された。さらに、コアゾーンの東に位置するイベントゾーンでは、2021年9月の姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」の開業に次いで、2022年5月に「兵庫県立はりま姫路総合医療センター（はり姫）」が開院した。これにより、鉄道の高架化を図る連続立体交差事業、土地区画整理事業、街路事業と都市拠点施設の整備を総合的に行う「キャストィ21計画」における主要な施設の整備が完了した。

今後、周辺部でも、手柄山スポーツ施設の整備、JR山陽本線姫路駅～英賀保駅間の新駅開業等が予定されており、高次都市機能を集積させた播磨圏域の中核市としてふさわしい都市空間整備が行われる。



世界文化遺産・国宝 姫路城



●市鳥 しらさぎ



●市花 さぎ草



●市蝶 ジャコウアゲハ



●市木 カシの木

●市名のいわれ

播磨国風土記「日女道丘」(ひめじおか) に由来します。

(資料：姫路市「ひめじ創生戦略」、「姫路フォトバンク」)

2 姫路市の概要

面積	534.35km ²	(2022年10月1日現在)
人口	525,044人	(姫路市の推計人口・2022年10月1日現在)
世帯数	227,558世帯	(姫路市の推計人口・2022年10月1日現在)
人口増減	【自然増減数】 ▲2,677人 (出生) 3,645人 (死亡) 6,322人 【社会増減数】 259人 (転入) 15,807人 (転出) 15,548人	(姫路市主要統計指標 令和4(2022)年)
産業	【事業所数】 22,770事業所 (製造業) 861事業所 (従業者4名以上) 【製造品出荷額等】 1兆9,911億円 (卸売業) 1,249事業所 【年間商品販売額】 1兆1,011億円 (小売業) 3,452事業所 【年間商品販売額】 5,507億円	(令和3年経済センサス-活動調査) (令和3年経済センサス-活動調査) (令和3年経済センサス-活動調査) (令和3年経済センサス-活動調査)
経済	2020年度市民経済計算 【市内総生産(GDP)】 2兆3,557億円 (構成比) (第1次産業) 90億円 0.4% (第2次産業) 7,330億円 31.1% (第3次産業) 1兆5,937億円 67.7% (輸入品税等) 201億円 0.9% 【就業者1人あたり】 802万円	(兵庫県「令和2年度市町民経済計算」)
観光入込客数	【2022年度】 695.3万人 ※2023年6月速報値 (うち、姫路城入城者数) 95.7万人	(姫路市観光経済局)
姉妹都市	シャルルロア市 (ベルギー) フェニックス市 (アメリカ) アデレード市 (オーストラリア) クリチーバ市 (ブラジル) 太原市 (中国) 昌原市 (韓国) 鳥取市 (日本・鳥取県) 松本市 (日本・長野県)	
姉妹城	シャンティイ城 (フランス・ロワーズ県) コンウィ城 (英国・北ウェールズ)	
観光交流協定締結城	ノイシュバンシュタイン城 (ドイツ・バイエルン州)	
位置及び地勢	【位置】 東経 134度41分 北緯 34度49分 【距離】 東西 約35.7km 南北 約55.5km 【海拔】 最高海拔 (夢前町山之内) 海拔 977m 【河川】 最長河川 (市川) 流路延長 77.554km	
気候	平均気温 最高気温 最低気温 降水量 最大降水量 16.1℃ 35.4℃ ▲4.5℃ (年合計) 1,004mm (日あたり) 94mm	(気象庁(2022年))

3 人口 (1) 世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷

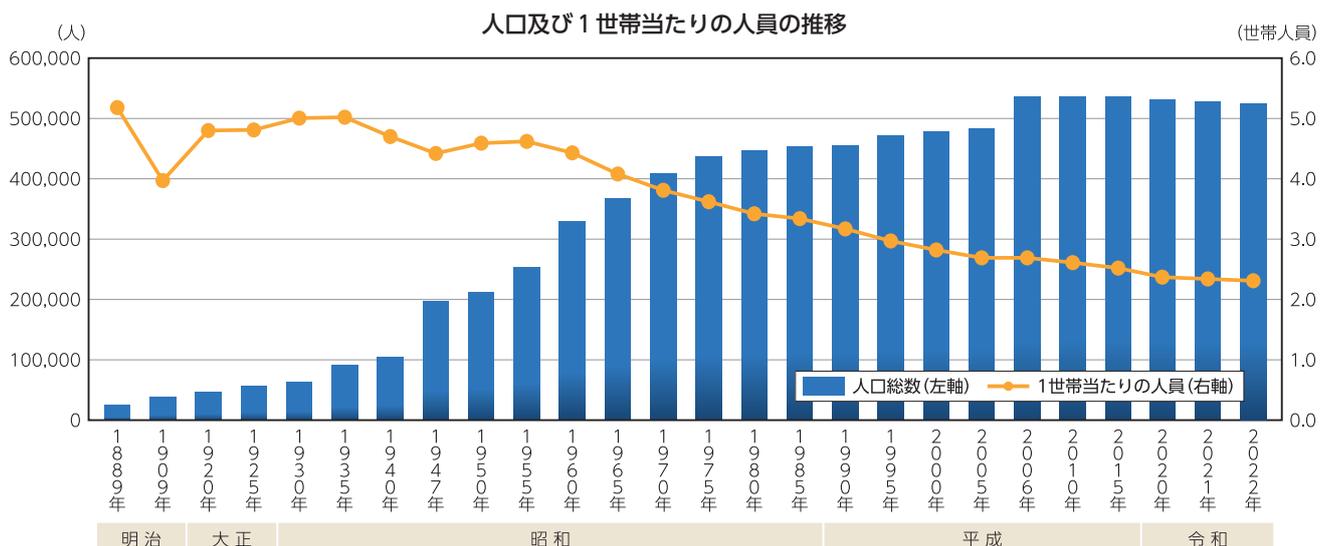
■世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷

区分	世帯数	人口			人口性比 (男/女)	1世帯当 りの人員	編入又は合併地域			
		総数	男	女						
明治	22年(1889年)	4,815	24,958	—	—	—	5.18	1889年4月1日 姫路市制施行		
	42年(1909年)	9,629	38,247	19,497	18,750	104.0	3.97	1912年 飾磨郡国衙村及び市殿村の一部		
①	大正	9年(1920年)	9,535	45,750	23,306	22,444	103.8	4.80		
②		14年(1925年)	11,582	55,713	27,415	28,298	96.9	4.81	1925年 城北村	
③	昭和	5年(1930年)	12,552	62,171	31,172	30,999	100.6	4.95	1933年 水上村、神崎郡砥堀村	
④		10年(1935年)	18,210	91,375	44,125	47,250	93.4	5.02	1935年 城南・高岡村 1936年 安室・荒川・手柄村	
⑤		15年(1940年)	22,188	104,259	49,548	54,711	90.6	4.70	1946年 飾磨市、白浜・広畑・網干町、 大津・勝原・余部村	
⑥		22年(1947年)	44,687	197,299	96,402	100,897	95.5	4.42		
⑦		25年(1950年)	46,255	212,100	102,385	109,715	93.3	4.59	1954年 曾左・余部・糸引・八木、 揖保郡太市村	
⑧		30年(1955年)	54,586	252,315	124,092	128,223	96.8	4.62	1957年 四郷・花田・御国野・別所村 1958年 飾東・的形村、神南町 1959年 大塩町	
⑨		35年(1960年)	74,188	328,689	162,152	166,537	97.4	4.43		
⑩		40年(1965年)	90,098	367,807	180,343	187,464	96.2	4.08	1967年 林田町	
⑪		45年(1970年)	107,302	408,353	200,072	208,281	96.1	3.81		
⑫		50年(1975年)	120,619	436,086	213,641	222,445	96.0	3.62		
⑬		55年(1980年)	130,445	446,256	217,174	229,082	94.8	3.42		
⑭		60年(1985年)	135,618	452,917	219,540	233,377	94.1	3.34		
⑮		平成	2年(1990年)	143,522	454,360	219,270	235,090	93.3	3.17	
⑯			7年(1995年)	158,818	470,986	227,240	243,746	93.2	2.97	
⑰	12年(2000年)		169,765	478,309	230,649	247,660	93.1	2.82		
⑱	17年(2005年)		178,987	482,304	232,553	249,751	93.1	2.69		
⑲	18年(2006年)		199,091	536,067	258,783	277,284	93.3	2.69	2006年3月27日 家島町、夢前町、香寺町、 安富町	
⑳	22年(2010年)		205,587	536,270	259,320	276,950	93.6	2.61		
㉑	令和	27年(2015年)	212,801	535,664	258,724	276,940	93.4	2.52		
㉒		2年(2020年)	224,106	530,495	256,616	273,879	93.7	2.37		
㉓		3年(2021年)	225,352	527,409	255,158	272,251	93.7	2.34		
		4年(2022年)	227,558	525,044	254,068	270,976	93.8	2.31		

注) ○印は国勢調査結果 (各年10月1日現在)

(資料：国勢調査、姫路市「姫路市の推計人口」)

2006年、2021年、2022年は姫路市推計人口 (各年10月1日現在)



3 人口 (2) 年齢階層別人口推移及び世帯類型別推移

2020年の人口は530,495人であり、姫路経済研究所が2023年3月に実施した推計では2050年に90,970人(17.1%)減少の439,525人となる。年齢3層別にみると、年少人口は29.3%減少の49,044人、生産年齢人口は26.5%減少の228,103人となる一方、老年人口は14.0%増加の162,377人となる推計結果となった。

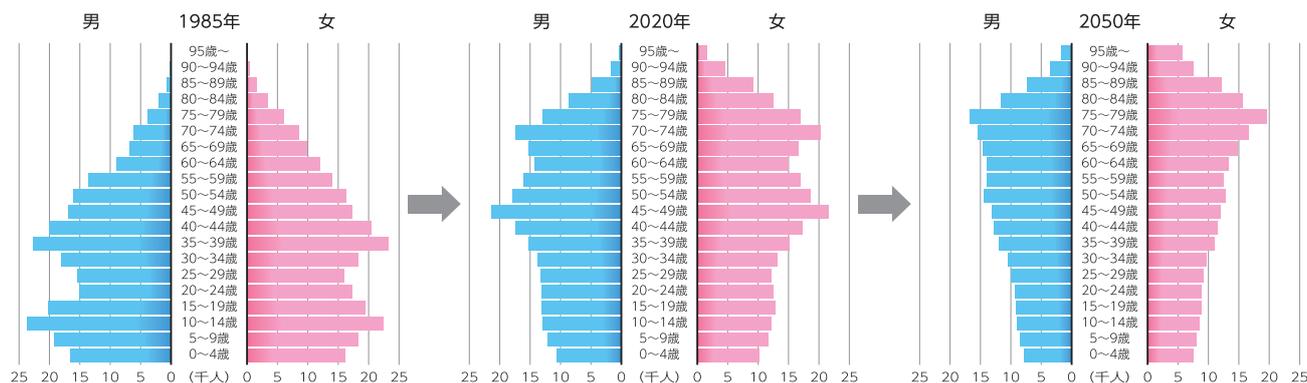
2020年の一般世帯数は223,793世帯であり、当所の推計では2050年には8.9%減少し203,901世帯となる。世帯類型別構成比でみると、2015年まで最も構成比の高かった「夫婦と子世帯」を2020年に「単独世帯」が上回っている。「単独世帯」の数は今後も増加を続け、2050年には構成比が37.4%まで上昇する推計結果となった。

■年齢3層別人口の推移及び将来人口

	年次	総人口	年少人口 (~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳~)	
			構成比	構成比	構成比	構成比		
実績値	1985年	506,101	116,164	23.0%	340,387	67.3%	49,534	9.8%
	1990年	509,129	97,643	19.2%	353,420	69.4%	57,460	11.3%
	1995年	527,854	90,720	17.2%	366,709	69.5%	70,384	13.3%
	2000年	534,969	87,325	16.3%	363,235	67.9%	84,387	15.8%
	2005年	536,232	84,007	15.7%	352,455	65.7%	99,606	18.6%
	2010年	536,270	80,093	15.0%	338,884	63.4%	115,703	21.6%
	2015年	535,664	75,155	14.1%	324,094	60.7%	134,671	25.2%
推計値	2020年	530,495	69,356	13.3%	310,280	59.4%	142,411	27.3%
	2050年	439,525	49,044	11.2%	228,103	51.9%	162,377	36.9%

注記：総人口実績値は「年齢不詳」を含む。(資料：実績値は「国勢調査」、推計値は姫路経済研究所(2023年3月推計))
 2005年以前は編入・合併前の計数を遡及集計している。
 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

■人口ピラミッドの比較



■世帯(一般世帯)数及び世帯類型

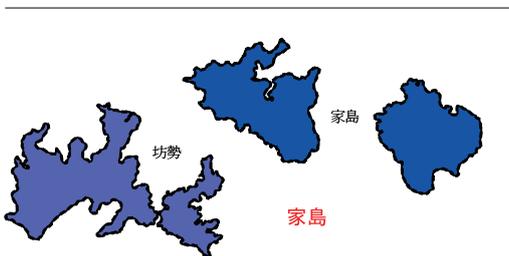
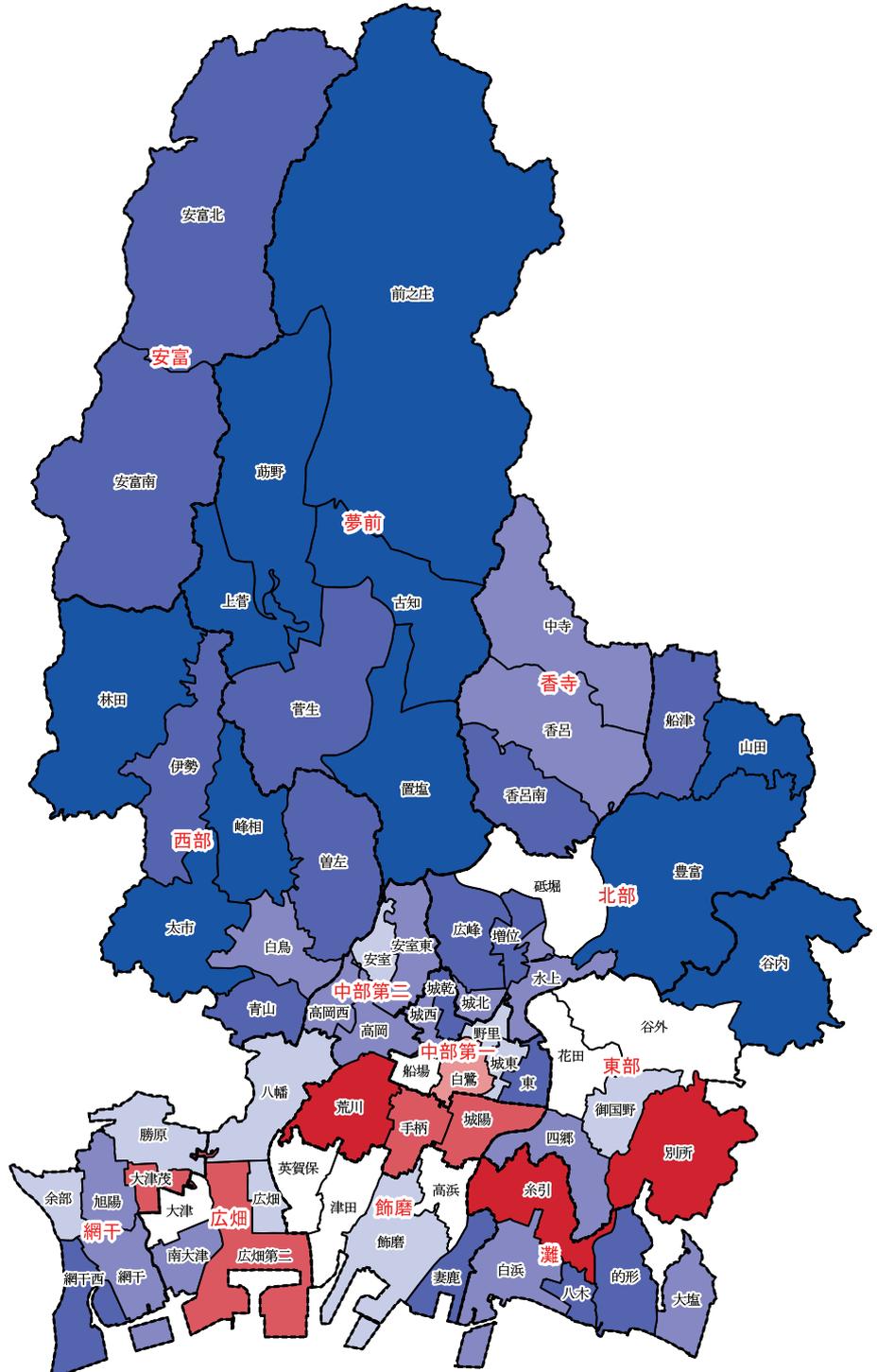
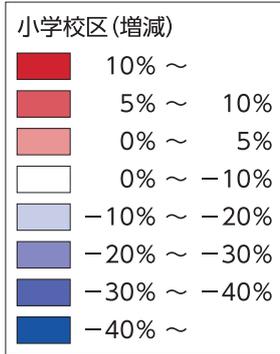
	年次	合計	単独		夫婦のみ		夫婦と子		ひとり親と子		その他	
			構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比		
実績値	1995年	174,553	34,569	19.8%	31,644	18.1%	66,973	38.4%	12,832	7.4%	28,535	16.3%
	2000年	186,426	40,446	21.7%	36,713	19.7%	67,642	36.3%	14,881	8.0%	26,744	14.3%
	2005年	195,560	47,490	24.3%	39,343	20.1%	66,122	33.8%	17,403	8.9%	25,202	12.9%
	2010年	205,357	55,752	27.1%	41,313	20.1%	65,325	31.8%	19,231	9.4%	23,472	11.4%
	2015年	212,444	62,344	29.3%	43,245	20.3%	65,048	30.6%	20,842	9.8%	20,965	9.9%
	2020年	223,793	75,447	33.7%	45,476	20.3%	62,985	28.1%	22,137	9.9%	17,748	7.9%
推計値	2050年	203,901	76,179	37.4%	43,260	21.2%	50,539	24.8%	20,347	10.0%	13,575	6.7%

注記：2005年以前は編入・合併前の計数を遡及集計している。(資料：実績値は「国勢調査」、推計値は姫路経済研究所(2023年3月推計))
 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

3 人口 (3) 小学校校区別将来人口推計

市内69小学校校区別の将来推計人口の増減率を地図で表した。

2020年から2050年の30年間で、8校区が増加、61校区で減少という予想となった。



(資料：姫路経済研究所 (2023年3月推計))

4 産業 (1) 産業構造

播磨地域の中心都市として、姫路市は臨海部に立地する鉄鋼、化学、電気機械などの重化学工業と活発な商業活動により発展してきた。これを反映し、全国に比べ製造業の占めるウェイトが高くなっている。

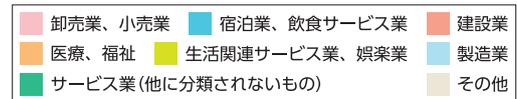
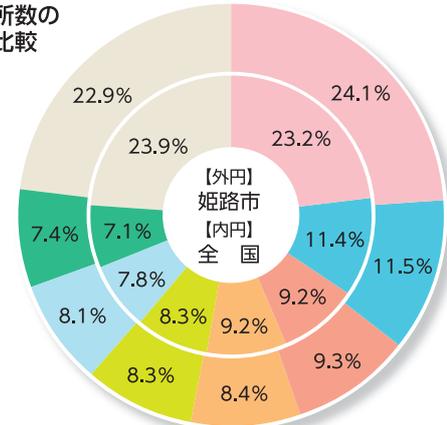
■事業所数

(単位：事業所)

分類	2021年	
	姫路市	全国
卸売業、小売業	5,476	1,228,968
宿泊業、飲食サービス業	2,606	601,300
建設業	2,111	485,139
医療、福祉	1,904	485,925
生活関連サービス業、娯楽業	1,874	436,687
製造業	1,840	412,682
サービス業(他に分類されないもの)	1,683	375,073
その他	5,206	1,263,117
合計	22,700	5,288,891

(資料：令和3年経済センサス-活動調査)

事業所数の構成比較



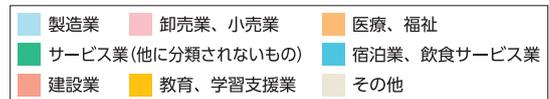
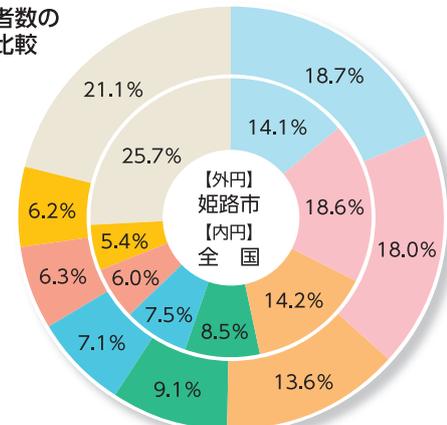
■従業者数

(単位：人)

分類	2021年	
	姫路市	全国
製造業	50,414	8,804,194
卸売業、小売業	48,564	11,612,174
医療、福祉	36,802	8,886,182
サービス業(他に分類されないもの)	24,692	5,303,693
宿泊業、飲食サービス業	19,079	4,701,797
建設業	17,149	3,737,447
教育、学習支援業	16,645	3,347,777
その他	56,909	16,034,644
合計	270,254	62,427,908

(資料：令和3年経済センサス-活動調査)

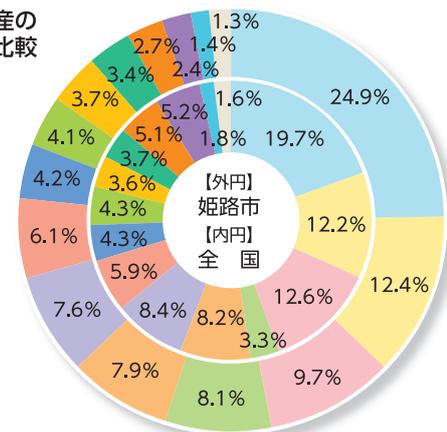
従業者数の構成比較



■総生産 (GDP)

分類	2020年	
	姫路市 (百万円)	全国 (億円)
製造業	587,495	1,062,737
不動産業	291,491	659,087
卸売・小売業	229,339	679,062
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	191,309	176,362
保健衛生・社会事業	186,424	442,153
専門・科学技術・業務支援サービス業	179,432	450,015
建設業	143,778	318,618
運輸・郵便業	99,369	233,992
金融・保険業	95,577	231,444
教育	87,390	192,195
その他のサービス	78,963	201,436
情報通信業	64,748	274,619
公務	56,894	279,305
宿泊・飲食サービス業	32,749	95,009
その他	30,735	85,520
合計	2,355,693	5,381,554

総生産の構成比較

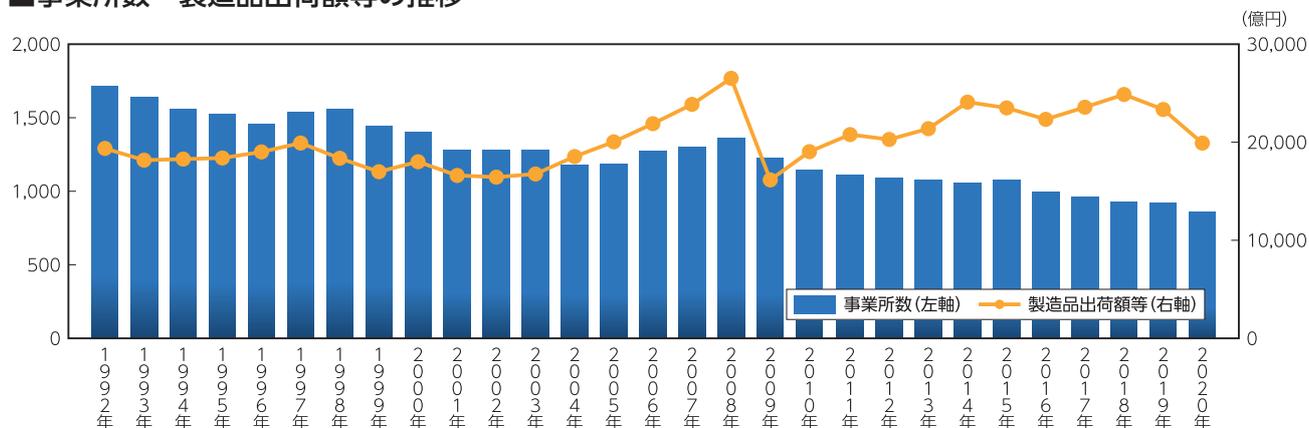


注記：姫路市は2020年度、全国は2020暦年
(資料：兵庫県「市町民経済計算」、内閣府「国民経済計算」)

4 産 業 (2) 製造業

令和3年経済センサスー活動調査によると、製造業における従業者数4人以上の事業所数は861事業所で、従業者数は46,589人となっている。また、製造品出荷額等は1兆9,911億円で、これを産業分類別に見ると鉄鋼業が4,645億円と最も多く、続いて電気機械器具製造業の4,384億円となっている。全国と構成比を比較すると、鉄鋼業、電気機械器具製造業、化学工業、業務用機械器具製造業の割合が高い。

■事業所数・製造品出荷額等の推移



注記：2015年以降の事業所数は、調査基準日の変更により翌年6月1日時点の数となっている。

製造品出荷額等は1月から12月の1年間の値となっている。

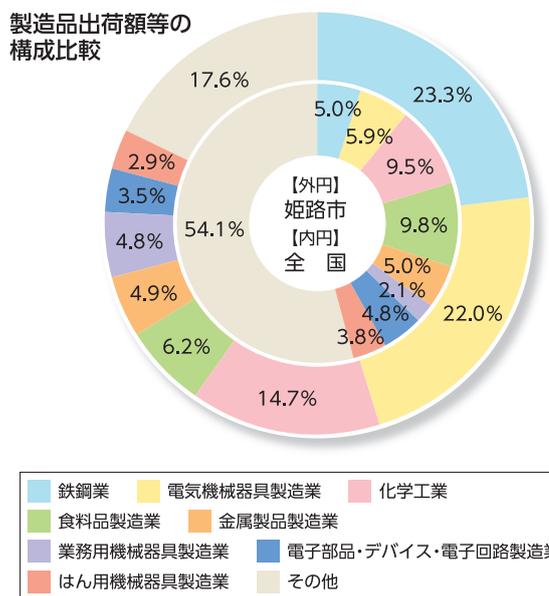
(資料：工業統計調査、経済センサスー活動調査)

■産業中分類別製造品出荷額等 (2020年)

分類	製造品出荷額等(億円)	
	姫路市	全国
鉄鋼業	4,645	150,723
電気機械器具製造業	4,384	178,191
化学工業	2,935	286,030
食料品製造業	1,234	296,058
金属製品製造業	983	150,204
業務用機械器具製造業	954	63,870
電子部品・デバイス・電子回路製造業	693	145,929
はん用機械器具製造業	585	114,242
その他	3,498	1,634,786
合計	19,911	3,020,033

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

製造品出荷額等の構成比較



■兵庫県下 製造品出荷額等の上位10市町の比較

市町	事業所数	従業者数(人)	製造品出荷額等(億円)
兵庫県計	7,106	347,873	152,499
神戸市	1,329	67,625	34,090
姫路市	861	46,589	19,911
尼崎市	653	31,891	13,070
明石市	269	23,182	12,273
加古川市	293	15,405	8,757
高砂市	139	13,991	8,505
伊丹市	240	14,679	6,348
三田市	104	10,158	5,351
たつの市	219	10,346	4,054
加東市	153	8,311	4,049

注記：製造品出荷額等の降順

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

4 産 業 (3) 卸売業

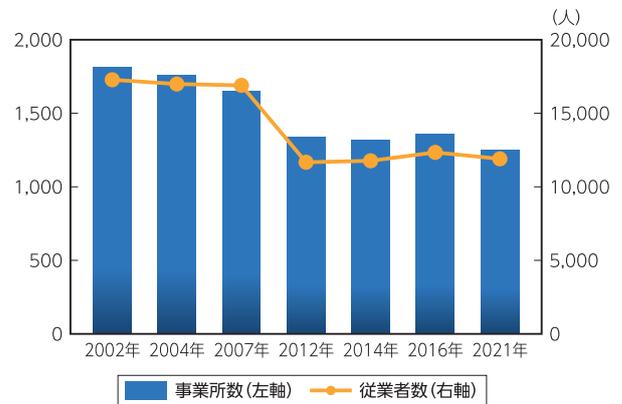
令和3年経済センサスー活動調査によると、卸売業は1,249事業所、従業者数は11,904人となっている。また、年間商品販売額は1兆1,012億円で、これを産業分類別にみると機械器具卸売業が3,202億円と最も多く、続いて建築材料、鉱物・金属材料等卸売業が2,871億円、飲食料品卸売業が2,078億円となっている。全国の構成比と比較すると、機械器具卸売業の割合が高い。

■事業所数・従業者数の推移

年次	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)
2002年	1,812	17,277	11,770
2004年	1,755	16,993	11,236
2007年	1,651	16,896	11,555
2012年	1,337	11,672	10,226
2014年	1,320	11,767	10,342
2016年	1,356	12,341	11,043
2021年	1,249	11,904	11,012

注記：2012年以降の年間商品販売額は、調査対象期間の変更により前年1年間の金額となっている。

(資料：商業統計調査、経済センサスー活動調査)

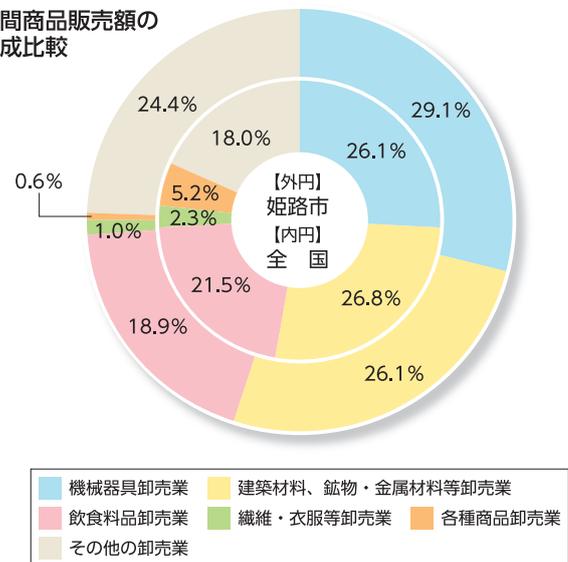


■年間商品販売額の構成 (2020年)

分類	年間商品販売額(億円)	
	姫路市	全国
機械器具卸売業	3,202	1,017,966
建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	2,871	1,044,174
飲食料品卸売業	2,078	837,007
繊維・衣服等卸売業	111	91,488
各種商品卸売業	66	203,260
その他の卸売業	2,684	699,989
合計	11,012	3,893,883

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

年間商品販売額の構成比較



■兵庫県下 年間商品販売額の上位10市町の比較

市町	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)	従業者1人当たりの 年間商品販売額(百万円)
兵庫県計	8,955	90,726	88,623	97.7
神戸市	3,190	40,357	43,752	108.4
姫路市	1,249	11,904	11,012	92.5
尼崎市	639	6,948	7,299	105.0
西宮市	495	5,587	6,675	119.5
伊丹市	204	2,520	3,440	136.5
明石市	334	2,741	3,330	121.5
加古川市	343	3,100	2,320	74.9
三木市	225	2,007	1,134	56.5
豊岡市	211	1,769	745	42.1
たつの市	134	1,052	632	60.1

注記：年間商品販売額の降順

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

4 産 業 (4) 小 売 業

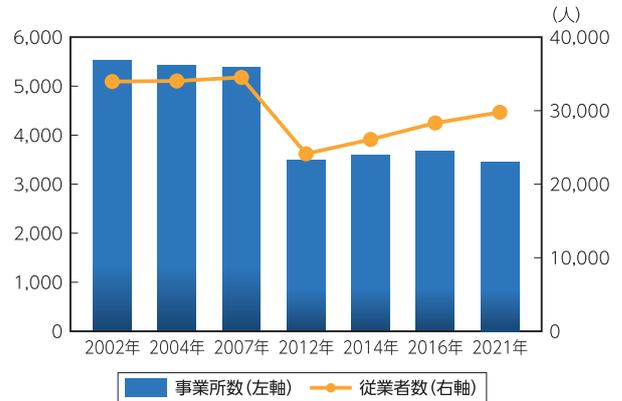
令和3年経済センサスー活動調査によると、小売業は3,452事業所、従業者数は29,784人となっている。また、年間商品販売額は5,507億円で、これを産業分類別にみると飲食料品小売業が1,475億円と最も多く、続いて機械器具小売業が1,224億円、各種商品小売業が496億円となっている。

■事業所数・従業者数の推移

年 次	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)
2002年	5,558	34,163	5,807
2004年	5,464	34,243	5,617
2007年	5,410	34,731	5,952
2012年	3,504	24,277	4,491
2014年	3,622	26,242	5,118
2016年	3,688	28,489	5,780
2021年	3,452	29,784	5,507

注記：2012年以降の年間商品販売額は、調査対象期間の変更により前年1年間の金額となっている。

(資料：商業統計調査、経済センサスー活動調査)

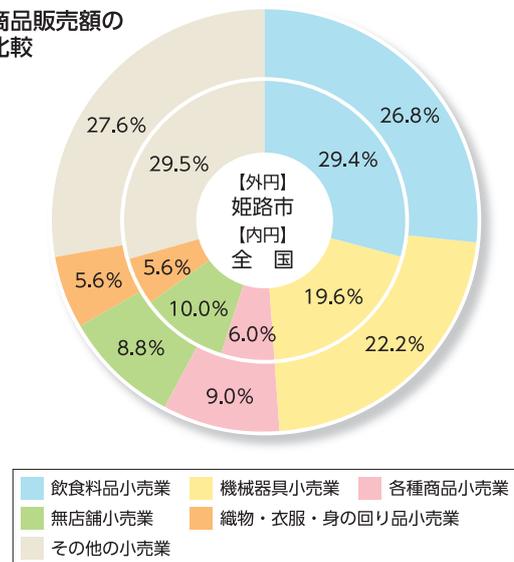


■年間商品販売額の構成 (2020年)

分 類	年間商品販売額(億円)	
	姫路市	全 国
飲食料品小売業	1,475	391,365
機械器具小売業	1,224	261,667
各種商品小売業	496	79,968
無店舗小売業	486	132,884
織物・衣服・身の回り品小売業	307	74,219
その他の小売業	1,519	392,471
合 計	5,507	1,332,575

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

年間商品販売額の構成比較



■兵庫県下 年間商品販売額の上位10市町の比較

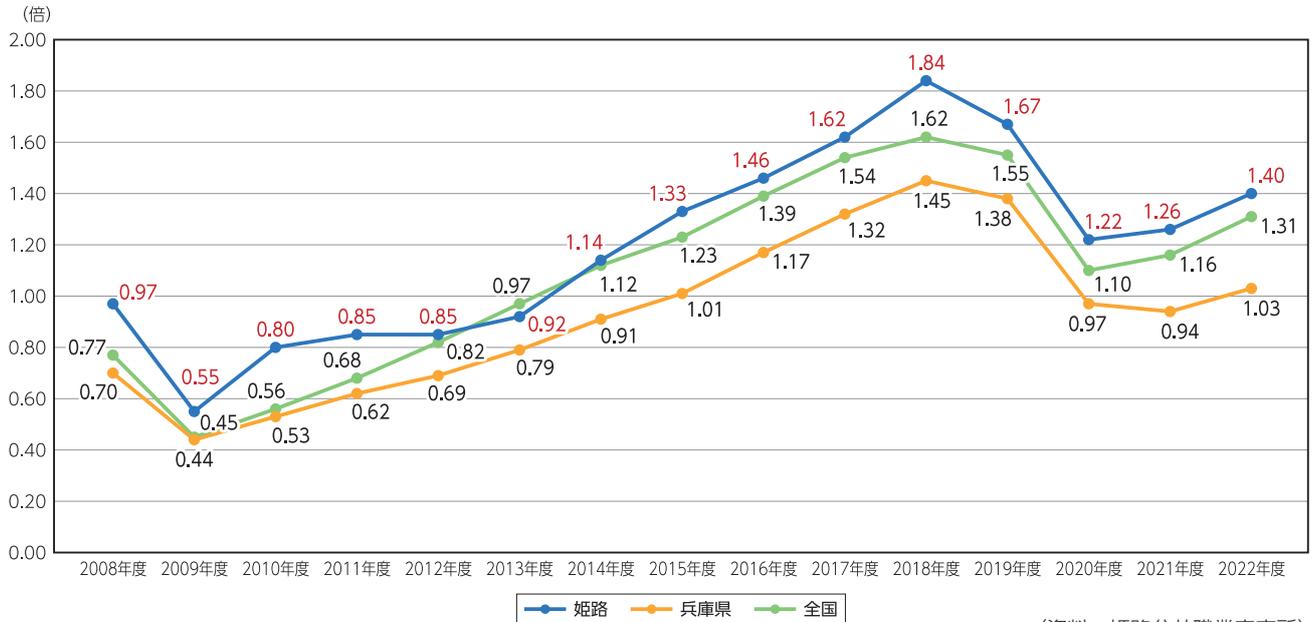
市 町	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)	売 場 面 積 (㎡)	売場1㎡当たりの 年間商品販売額(万円)
兵庫県 計	30,754	270,959	51,972	5,385,360	96.5
神戸市	8,750	82,248	17,882	1,564,600	114.3
姫路市	3,452	29,784	5,507	626,822	87.9
西宮市	2,077	22,886	4,221	368,122	114.7
尼崎市	2,155	19,134	3,423	334,923	102.2
加古川市	1,232	12,404	2,421	301,775	80.2
明石市	1,334	12,943	2,134	238,024	89.7
伊丹市	847	9,039	1,778	184,774	96.2
宝塚市	816	8,092	1,451	139,323	104.2
川西市	629	6,737	1,313	122,719	107.0
三田市	463	5,652	964	132,882	72.5

注記：年間商品販売額の降順

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

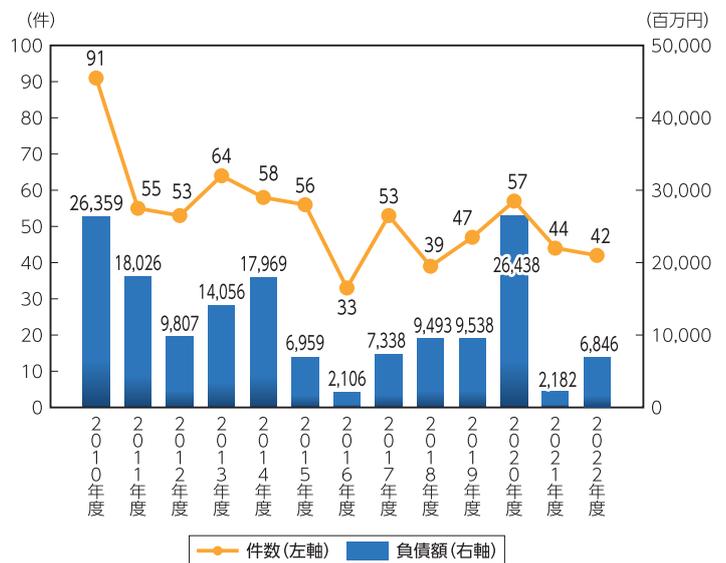
4 産業 (5) その他関連指標

■有効求人倍率の推移

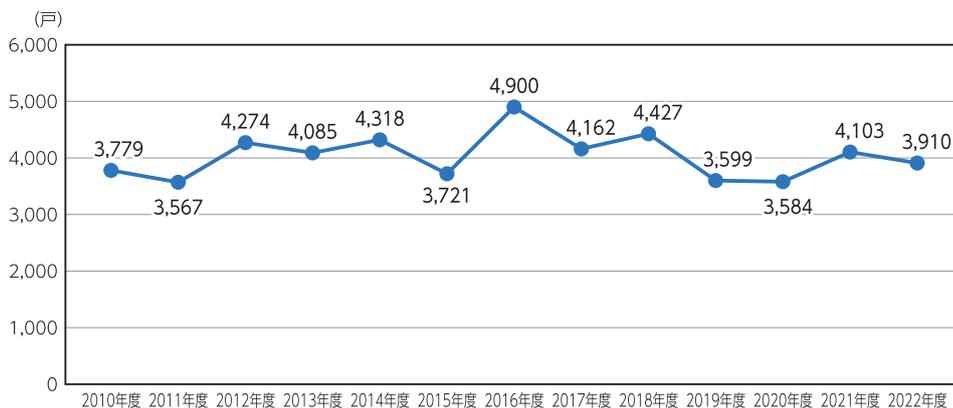


■倒産状況の推移

年度	件数		負債額(百万円)	
	前年差(件数)	前年比(%)	前年比(%)	
2010年度	91	11	26,359	▲ 12.6
2011年度	55	▲ 36	18,026	▲ 46.2
2012年度	53	▲ 2	9,807	▲ 83.8
2013年度	64	11	14,056	30.2
2014年度	58	▲ 6	17,969	21.8
2015年度	56	▲ 2	6,959	▲ 158.2
2016年度	33	▲ 23	2,106	▲ 230.4
2017年度	53	20	7,338	71.3
2018年度	39	▲ 14	9,493	22.7
2019年度	47	8	9,538	0.5
2020年度	57	10	26,438	63.9
2021年度	44	▲ 13	2,182	▲ 1111.6
2022年度	42	▲ 2	6,846	68.1



■新設住宅着工戸数の推移

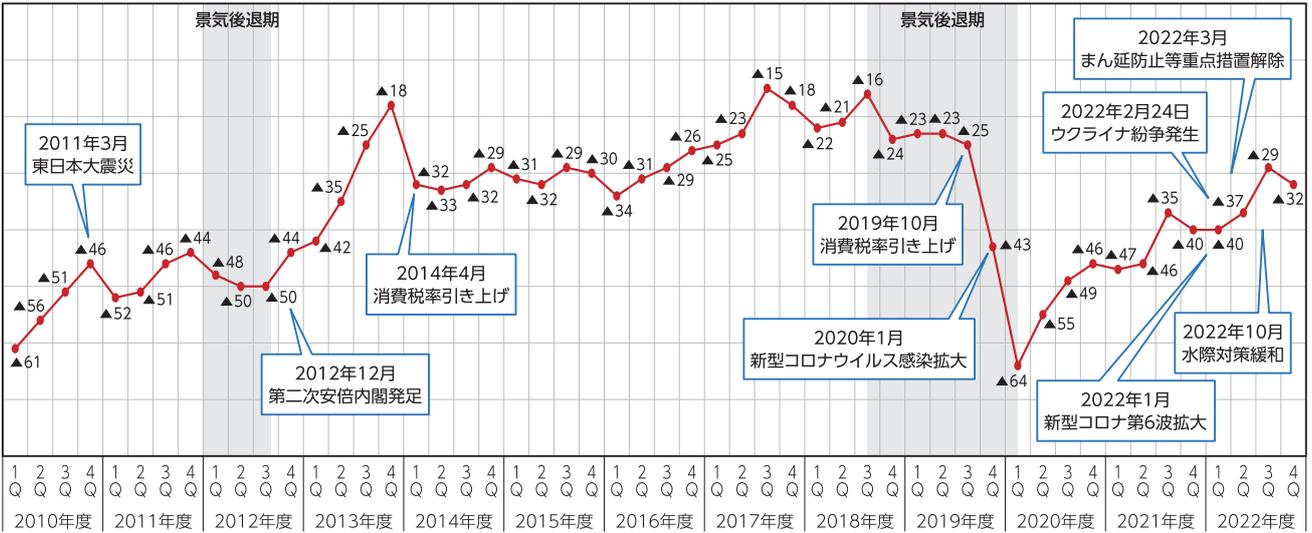


年度	着工(戸)
2010年度	3,779
2011年度	3,567
2012年度	4,274
2013年度	4,085
2014年度	4,318
2015年度	3,721
2016年度	4,900
2017年度	4,162
2018年度	4,427
2019年度	3,599
2020年度	3,584
2021年度	4,103
2022年度	3,910

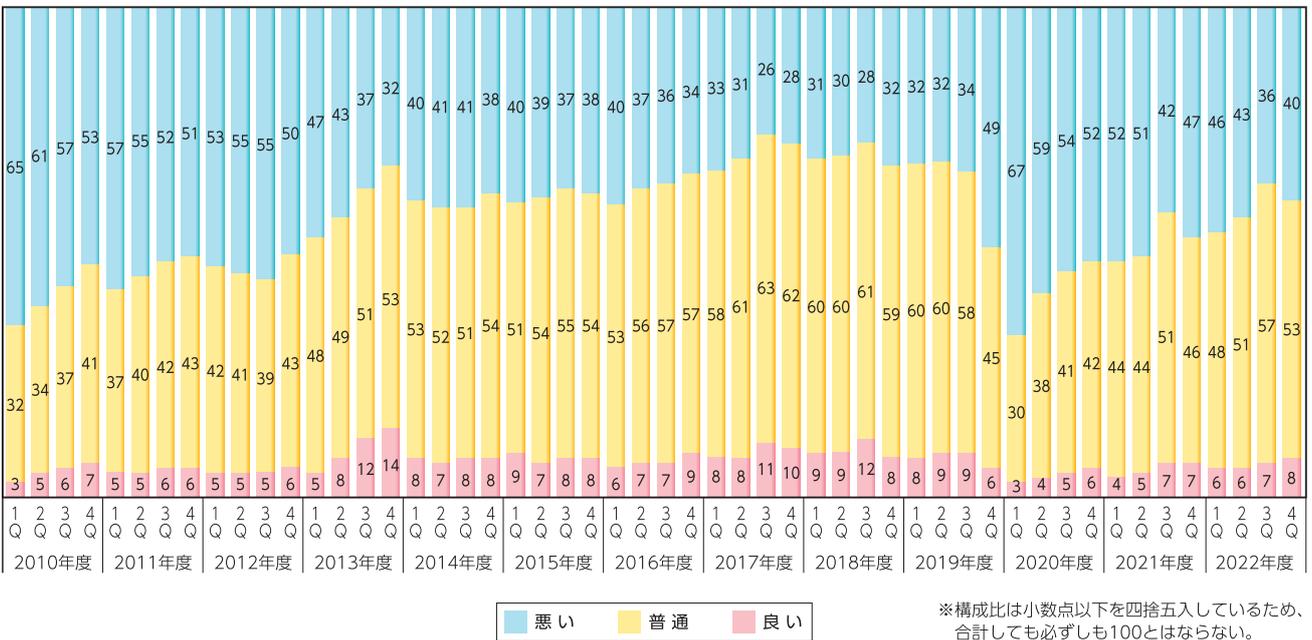
(資料：兵庫県「新設住宅着工統計市区町別集計表」)

5 姫路市内景気動向

■景気動向調査「姫路の業況判断DI」の長期推移



■「姫路の業況判断DI」構成比の推移



■項目別DI値の推移

	2020年度 ／4Q	2021年度 ／1Q	2021年度 ／2Q	2021年度 ／3Q	2021年度 ／4Q	2022年度 ／1Q	2022年度 ／2Q	2022年度 ／3Q	2022年度 ／4Q
業況判断DI	▲ 46	▲ 47	▲ 46	▲ 35	▲ 40	▲ 40	▲ 37	▲ 29	▲ 32
従業員過不足DI	▲ 16	▲ 14	▲ 17	▲ 27	▲ 24	▲ 22	▲ 25	▲ 30	▲ 29
設備過不足DI	▲ 4	▲ 3	▲ 2	▲ 8	▲ 7	▲ 5	▲ 5	▲ 8	▲ 8
在庫過不足DI	6	6	7	1	3	1	5	2	1
資金繰りDI	▲ 19	▲ 20	▲ 17	▲ 17	▲ 22	▲ 20	▲ 20	▲ 21	▲ 21

※DI：Diffusion Index（ディフュージョンインデックス）の略称。
 企業の景況感や従業員、設備の過不足などの判断を指標化したもの。
 業況判断については、「良い」割合から「悪い」割合を引いた値をもとに作成。
 （資料：姫路商工会議所「景気動向調査」）

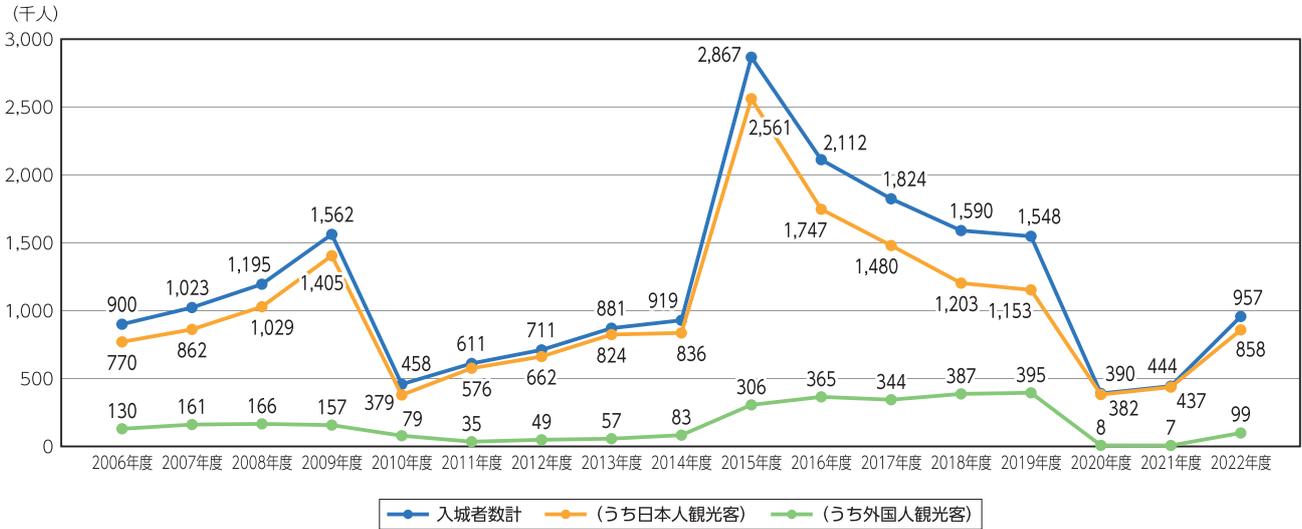
詳しい調査結果は姫路商工会議所（姫路経済研究所）ホームページをご覧ください。

6 観光

姫路城の入城者数は、国内城郭の年間入城者数で過去最多を記録した2015年度の286.7万人をピークに減少傾向にあるが、外国人観光客についてはコロナ禍前の2019年度までは増加傾向となっている。

2020年度には新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発出されたことで姫路城が休城となり、入城者数は大きく減少したが、2021年度以降は回復傾向にある。

■姫路城の入城者数の推移



(資料：令和3年度姫路市入込客数・観光動向調査報告書)

■姫路市内宿泊施設動向調査

2022年度の姫路市内の延べ宿泊者数は前年度比29.9万人増加し123.9万人となった。

2020年度、2021年度はコロナ禍の影響で宿泊者数は減少したものの、2022年度では回復傾向にある。

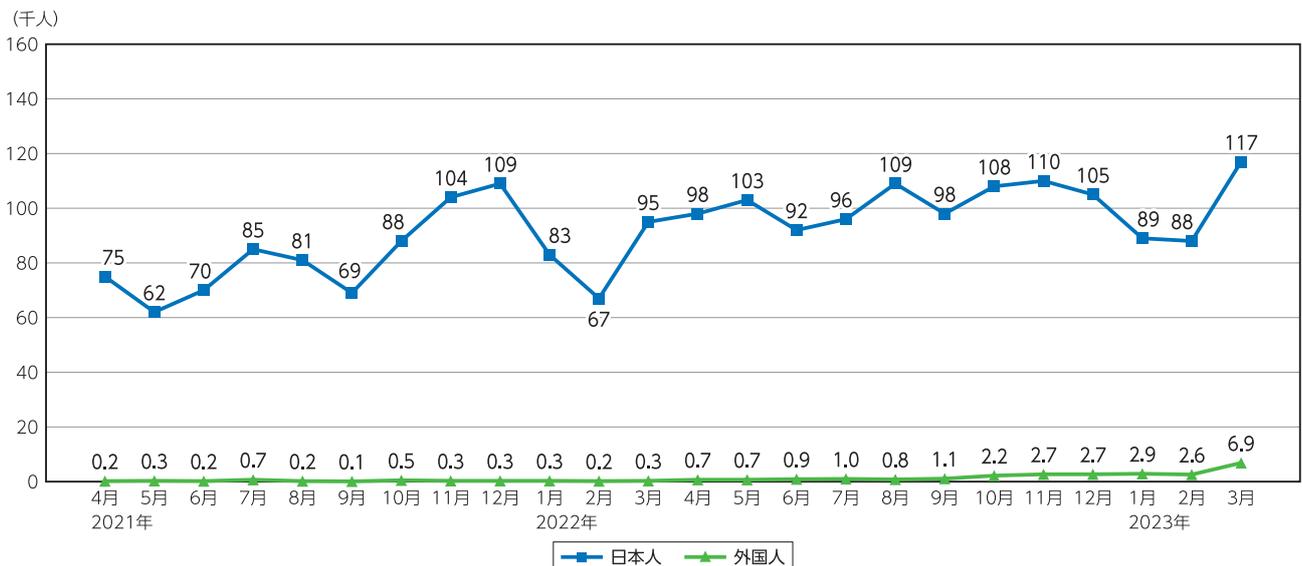
【日本人・外国人延べ宿泊者数の比較】

(人)

	総数	日本人	外国人	不詳
2019年度	1,274,566	1,182,833(92.8%)	89,868(7.1%)	1,865(0.1%)
2020年度	889,531	883,922(99.4%)	4,707(0.5%)	902(0.1%)
2021年度	940,454	936,548(99.6%)	3,175(0.3%)	731(0.1%)
2022年度	1,239,027	1,212,600(97.9%)	25,041(2.0%)	1,386(0.1%)

※調査対象施設数の変更により、2021年度以前の実績は2022年度の対象施設数を元に再計算している。

【月別推移】



(資料：姫路経済研究所「姫路市内宿泊施設動向調査」)

7 姫路市の統計データランキング

ランキングの対象は815市・特別区

面積・人口・世帯		
面積注1	130位	534.56km ²
人口注2	32位	530,877人
自然増減率（3年前比）	219位	▲0.98%
社会増減率（3年前比）	316位	▲0.18%
年少人口比率（～14歳）	153位	12.96%
生産年齢人口比率（15～64歳）	193位	59.96%
老年人口比率（65歳～）	630位	27.08%
平均年齢	626位	46.6歳
合計特殊出生率	234位	1.58
世帯数注2	37位	243,339世帯
1世帯あたり人員	436位	2.18人

財政力		
地方税収額	24位	959.6億円
歳出総額	27位	2,333.3億円
経常収支比率※1	97位	83.6%
実質公債費比率※2	130位	3.0%
将来負担比率※3	396位	19.1%
財政力指数※4	127位	0.87
自主財源比率※5	138位	48.6%
交付税依存度※6	122位	6.5%
地方債残高	27位	2,049.6億円
（1人あたり）地方債残高	499位	38.6万円

経済力		
事業所数（民営）	30位	23,660事業所
従業者数（民営）	34位	244,970人
従業者100人以上事業所数	32位	262事業所
製造品出荷額等	17位	1兆9,910.9億円
卸売業年間販売額	44位	1兆1,012.0億円
小売業年間販売額	36位	5,507.4億円
大規模小売店施設数	22位	112施設

雇用・マンパワー		
労働力人口	30位	256,595人
女性労働力率	573位	50.3%
完全失業率	291位	4.0%
就業人口構成（1次産業）	663位	1.0%
就業人口構成（2次産業）	201位	30.9%
就業人口構成（3次産業）	421位	65.1%

生活基盤・環境		
昼夜間人口比率	269位	100.24%
納税者1人当たり所得	178位	347.2万円
持家世帯比率	577位	65.0%
住宅地平均地価（㎡）	229位	6.25万円
1万人当たり病床数	456位	117.0床
人口1万人当たり医師数	234位	24.2人

注1 国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（2022年10月）

注2 総務省「人口基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（2022年1月）

（資料：東洋経済新報社「都市データパック2023年版」）

※1 歳出のうち、人件費などの経常的に支出される経費の、市税などの経常的に収入される一般財源に占める割合で、財政の硬直度を表す。この指数が低いほど財政運営の弾力性が高い。

※2 自治体の一般事業会計などが負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3ヵ年平均）。公債費による財政負担の度合いを判断する指標で、この比率が18%以上となる自治体は、起債に当たり総務大臣等の許可が必要になる。

※3 自治体の一般事業会計などが将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率。中長期的な視点から公営企業や第三セクターなどの出資法人までを含めた、将来の実質的な負債の大きさを判断するための指標。

※4 基準財政収入額を基準財政需要額で除したものの（3ヵ年度の平均値）。一般的には、収入に対して需要が小さい自治体（財政力指数が大きい自治体）が、財政的には余裕がある。地方交付税は、財政力指数が1を超える団体には交付されず、1を下回る団体に基準に当たって交付される。

※5 歳入に占める自主財源の割合であり、自治体の財政基盤の安定性や自立性を判断する指標。一般に、この比率が高いほど望ましいと考えられる。

※6 歳入に対する地方交付税の割合。

注記：データ欄の順位は、※1・2・3を除き、大（高）→小（低）で算出している。

姫路商工会議所
姫路経済研究所

〒670-8505 姫路市下寺町43番地
TEL 079-223-6555
FAX 079-288-0047

HP <https://www.himeji-cci.or.jp/>

